

事業名称	ポリフォニックミュージアム～文化の光を灯す星々～		
実行委員会	ライフミュージアムネットワーク実行委員会		
中核館	福島県立博物館		
	住所	〒965-0807 福島県会津若松市城東町 1-25	
	TEL	0242-28-6000	FAX 0242-28-5986
	ホームページ	https://general-museum.fcs.ed.jp/	
構成団体	只見町ブナセンター、はじまりの美術館、一般社団法人未来の準備室、東北芸術工科大学美術館大学センター、NPO 法人アーツセンターあきた		
事業開始時点の課題分析	<p>福島県立博物館は「福島県立博物館の使命と活動方針」（平成19年度公表、平成25年、26年、31年改正）において、使命の第一に地域文化の価値を学び新たな文化を創り出す「ふくしま発見 博物館」を、あわせて文化の多様性への尊重に基づく人と人との交流の場であろうとする「出会いふれあい 博物館」、他団体との連携によって災害や社会情勢の変化に対応し課題に取り組む「明日に向かう 博物館」を使命に掲げ活動してきた。</p> <p>しかし福島県では、東日本大震災に加え、令和元年の台風19号災害、令和2年からの新型コロナウイルス感染症拡大により、地域の歴史文化の継承の困難、伝統文化の担い手不足、コミュニティの危機、機会の不平等、社会的に弱い立場にある人へのアクセスの不足など、これまで潜在していた地域の社会的課題が浮き彫りとなった。そこには、本来地域課題に向き合うべき地域ミュージアムの機能不全という課題も含まれる。</p> <p>社会的課題の顕在化とミュージアム機能の限定化の背景には、共通の要因として社会とミュージアム双方における過疎、少子高齢化、文化の地域格差、教育格差、生活文化の変容、多様性への無理解などがあり、それが地域の文化基盤を弱体化し、課題を解決する体力を奪っている。</p> <p>こうした課題に対応できるよう、これまでの福島県立博物館の活動の蓄積を活用し、地域が持っている文化力や自然と共生したくらしの豊かさを見直し、地域の発展に資する文化施設・公共施設としての新たな博物館活動の構築が求められている。</p>		
事業目的	<p>本事業では、プラットフォームとしての福島県立博物館が、ライフミュージアムネットワーク（2018～2019文化庁の支援を受けて実施）で構築したミュージアムネットワークを活用して、地域ミュージアムや文化スペースと協働して県内各地に拠点を設け、博物館活動を社会的課題に向き合うものとして拡張する。</p> <p>これは ICOM 京都大会で提案された「過去と未来についての批判的な対話のための民主化を促す包摂的で様々な声に耳を傾ける空間（ポリフォニックスペース）」を各地に創出するための福島県立博物館の試みでもある。</p> <p>具体的には、福島県内の地域ミュージアムや文化スペースと連携・相互支援を行い、アーティストや研究者などから多様で新たな思考方法を取り入れ、将来世代を含む多世代と協働して、ミュージアムの基本機能の強化と新たな活用を探る。各地域固有の歴史文化の再認識・再発見と、そこから立ち上がる課題への向き合い方の考察、その先にある未来像の創出を通して、ミュージアム的な場を多様に提案し、持続可能な地域社会への貢献を試みる。</p>		

本事業で生み出す博物館活動の拠点は文化の光を灯す星となり、それらの拠点が多様性・循環型社会などのキーワードによって結ばれることで、各地にさまざまな博物館活動の星座を描き出すだろう。

事業概要

(1) 地域の社会的課題の解決・SDGs 実現の考察

実行委員会での協議により事業を企画運営した。過疎、文化的体験の享受の格差、福祉などをテーマに、共通の課題を抱える県内外の地域ミュージアム、アートプロジェクト関係者、アーティスト、研究者等の専門的知識を有する人（本事業ではそれらの人々を賢者と称する）が意見を交わし、具体的実践への提言を行う議論の場（ラウンドテーブル）をオンラインを含め定期的に開催した。また、賢者と各ワークショップ担当者とがアートワークショップの成果と課題を評価し、新たな連携を生み出すラウンドテーブルを開催した。

(2) 地域の社会的課題の解決・SDGs 実現の実践-アートワークショップ

①白河まち歩きフォトスゴロクを作ろう！（白河）

（SDGs の目標 4「質の高い教育をみんなに」を目指したアートワークショップ）

都市部と比較して文化資源の享受の機会が少ない地域の高校生が、アーティストや研究者とともに地域の歴史を学ぶことで、既存の教育では得られない新たな視点・学びの方法を得るとともに、地域の歴史の伝統文化に関心を深めたアートワークショップ。

②海幸山幸の道（飯舘・いわき）

（SDGs の目標 14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさも守ろう」を目指したアートワークショップ）

地域の自然環境、歴史の集合体である食文化を、アーティスト、研究者、地域の方と共に考え、被災地における海の恵み・山の恵みの再生をめざすアートワークショップ。

③つくること・つかうこと（只見）

（SDGs の目標 12「つくる責任 つかう責任」を目指したアートワークショップ）

自然と共生する暮らしの中で培われてきた道具、生活文化を様々な視点から見直し、次の世代と共有することで持続可能な地域社会について考察を深めたワークショップ。

④博物館部（会津若松市）

（ICOM 京都大会で提唱されたポリフォニックスペースの創出を目指したアートワークショップ）

ミュージアムをプラットフォームとし、アーティストが介在することで、多様な価値観、多様な世代、多様な存在が共存する空間を創出したアートワークショップ。

(3) 成果の公表・発信

福島県内各地でのアートワークショップの実践や成果、県内外の関連事例を取材し、地域の社会的課題とミュージアムによる解決のための取り組みを伝える定期的レポートを作成・発信した。事業の概要、内容、活動記録を共有するための SNS、Web サイトを作成し発信する。事業全体について総括する記録集の作成を行った。

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1. 地域の社会的課題の解決・SDGs 実現の考察 (1) 県内外のミュージアム等との連携と学び ①実行委員会 ②ラウンドテーブル</p> <p>2. 地域の社会的課題の解決・SDGs 実現の実践-アートワークショップ (1) 白河まち歩きフォトスゴロクを作ろう！（白河市） ①調査 ②レジデンス ③ワークショップ ④成果物制作</p> <p>(2) 海幸山幸の道（飯館村・いわき市） ①調査 ②ワークショップ ③成果物制作</p> <p>(3) つくること・つかうこと（只見） ①調査 ②レジデンス ③ワークショップ ④成果物制作</p> <p>(4) 博物館部（会津若松） ①調査 ②ワークショップ ③成果物制作</p> <p>3. 成果の公表・発信 (1) 多様な媒体による成果の公表・発信 ①定期的レポートの制作 ②記録集の制作 ③SNS、Web サイトでの発信</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>当事業の実施を通して、福島県立博物館がプラットフォームとなり県内各地の地域ミュージアムや文化スペースと協働することによって、社会的課題に向き合うベースを築くことができた。また、アーティストや研究者、実行委員会委員、賢者の視点を取り入れ、多様な人々・世代の交流を生んだことにより、多様な声や価値観が共存するポリフォニックな空間・時間が創出された。これらにより、様々なモノ・コト・ヒトの結節点となりうるミュージアムの役割が改めて明確となった。</p> <p>アートワークショップでは、拠点とした各地域の歴史と現在のリサーチ、及び関連する先進事例のリサーチを通して地域の社会的課題に対する新たな視点を得、ワークショップでの実践によって、ミュージアム機能の拡張が持続可能な地域社会を実現し得ることを各拠点施設及び参加者と共有した。</p> <p>ラウンドテーブルは、各アートワークショップの向き合う課題を様々な視点から検証し、成果を評価・共有することによって、アートワークショップの実践にフィードバックするとともに、新たなネットワークの構築にもつながった。</p> <p>アートワークショップの実施過程のレポートの逐次的発信、ラウンドテーブルへのオ</p>

	<p>オンライン参加、及びアートワークショップの成果・ラウンドテーブル録画の Web 公開、紙媒体の記録集により事業成果を広く発信することで、事業への賛同・理解を得ることができた。</p>
--	--

【事業実績】

【ラウンドテーブル】

全 7 回開催。各アートワークショップの向き合う課題を様々な視点から検証し、成果を評価・共有することによって、アートワークショップの実践にフィードバックするとともに、新たなネットワークの構築にもつながった。



ラウンドテーブル「ヤベアベ学級との12月」
2022/2/3 (福島県立博物館ティールーム/オンライン)



ラウンドテーブル「開く、ミュージアム」2022/1/23
(福島県立博物館講堂/オンライン)

【アートワークショップ「白河まち歩きスゴロクを作ろう!」】(SDGs4・11実現に向けた取り組み)

高校生がアーティストや地域の大人とともにまち歩きを行い、まちの気になるところをスマホで撮影。L判にプリントアウトし、参加者同士で対話を行いながらまち歩きフォトスゴロクを作成、実施。まちの多様な見方を共有した。



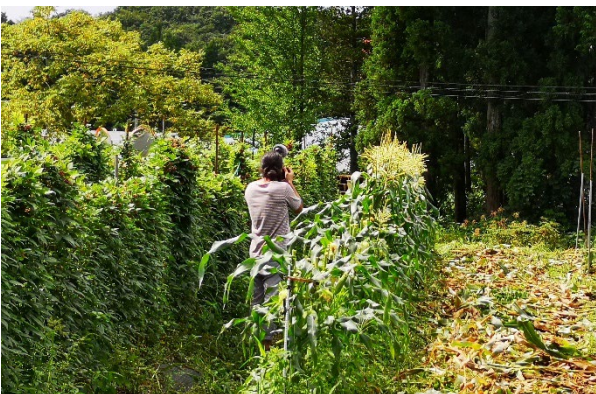
まち歩きの様子(白河市内) 2021/12/5



フォトスゴロク実施(コミュニティ・カフェ EMANON) 2021/12/5

【アートワークショップ「海幸山幸の道」】(SDGs11・12・14・15を実現に向けた取り組み)

土地と食の恵みに大きな課題を抱えているいわき・飯館で、アーティスト、研究者、地域の方と共に「食」をテーマとしたリサーチを行い、映像作品として記録。食のリサーチを通して、その土地の生態系とも言えるものが浮かび上がった。



土づくりについてリサーチ(飯館・斎藤次男さんの畑)
2021/8/23



東日本大震災以降の取り組みなどについてリサーチ
(いわき・小名浜港) 2021/10/27

【アートワークショップ「つくること・つかうこと」】（SDGs12 実現に向けた取り組み）

自然と共生する循環型の暮らしのなかでつくり・つかわれてきた道具や生活文化を見直しリサーチを行い、それを共有する仕組み（民具キットづくり、展示手法の工夫）を考察した。



民具コレクションとその展示手法についてリサーチ
（秋田・油谷コレクション） 2021/11/5



生活のなかで使われる民具についてリサーチ
（只見・農家民宿） 2021/12/1

【アートワークショップ「博物館部」】（ポリフォニックスペースの創出）

支援学校・適応指導教室との連携により、学校・教室と博物館とを往復し、アーティストとともに対話型鑑賞、動物さがしマップづくり、五感をつかった活動、博物館見学とそこで感じたことをもとにした表現活動など、多様なワークショップを実施。ミュージアムが誰でも安心して自己表現できる場になるための試行を行った。



中津川さんと絵を描こう（福島県立会津支援学校）
2021/12/13



博物館でどうぶつさがし（福島県立博物館常設展示室）
2021/12/8

【ラウンドテーブル参加者の声】

美術館は（博物館も）、「問い」のちからを鍛える場所ですね。（「開く、ミュージアム」）

ミュージアムは新しいことが生まれる実験場でもあることを再認識させていただきました。（「開く、ミュージアム」）

こういう場に行政の方々も混じられているのがいいなあと感じました。（「白河まち歩きスゴロクを振り返る、考える」）

私たちが暮らしている“今”というこの瞬間は、どんな文脈を受け継ぎ、何をもたらされここで暮らしているのか、その答えを見つける糸口として、「食文化」というのは、先人からのメッセージなのだと感じました。（「土地を知るには食から」）

■Web サイト

https://general-museum.fcs.ed.jp/page_about/archive/life-museum-network

■facebook

<https://www.facebook.com/%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%95%E3%83%9F%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%82%A2%E3%83%A0%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF-1168991509906999>